

被害者遺族の声 ～ながらスマホSTOP～

ながらスマホで失った9歳の息子の命

その日は突然やってきました。職場に一本の電話が入り、「とにかくいちゃんが大変だからすぐに病院にきて」との私の母親の一言で病院に駆けつけました。

病院に着いても集中治療室に入ることができず、家族で待ちました。

待っている間に病院に来た警察官から敬太が持っていた潰れてしまった水筒、メガネ、ランドセル等を受け取りました。すると12歳の長男は、「父ちゃん、敬太の水筒が壊れて使えないよー、戻してやらないと。」と直るはずのない水筒を必死に押して直そうとしていました。

しばらく待合室で待った後、治療室に入ることを許されましたが、そこで目の当たりにしたのは、医師に馬乗りになられて心臓マッサージを受け、瞳孔が開いたままの敬太でした。

その後も必死の措置が行われましたが、医師から言われたのは「今、敬太君のお腹の中は大量に出血した血液でいっぱいになった状態で血圧が保たれていますが、メスを入れると、それで終わりです。」という言葉でした。

私は諦めることができず、「肝臓の一つくらいあげてもいいですから、何とか助けてください。」とすがりましたが、最後は一緒にいた私の父親が私の肩をそっと引き、「敬太は頑張ったよ。」と促したのです。

それから間もなく、家族に囲まれながら敬太は生まれた病院で息を引き取りました。

敬太は集団下校で横断歩道を横断中に、スマホでゲームをしながら運転していたドライバーに命を奪われたのです。

もう二度とこんなこんな悲しみにくれる家族を増やしたくありません。そのために、全ての人が前を見るという当たり前のことを守って運転してください。